

令和6年 年頭の辞

九州運輸局海上安全環境部長 山下 裕二



令和6年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年、令和4年4月に発生した知床遊覧船事故を教訓に、二度とこのような事故を起こさないよう、同年12月に取りまとめられた「旅客船の総合的な安全・安心対策」に基づく取組を実施いたしました。本年も引き続き海事産業に不可欠である「安全確保」に向けて、同対策を踏まえた取組を着実に推進してまいります。

具体的には、昨年9月に取りまとめられた運輸安全委員会の最終報告書の内容についても十分に踏まえた上で、船舶検査、運航管理監査、運輸安全マネジメント等を的確に実施するとともに、本年より制度化が見込まれている船舶設備の追加の安全対策が、関係船舶に対して円滑に進んでいくよう適切に対処して参ります。

また、海難事故の大半がプレジャーボートなどの小型船舶によるものであることから、海上保安部や警察署などの関係機関と連携して、小型船舶操縦者の遵守事項に関する周知啓発やパトロール等の活動を実施します。

我が国に入港する外国船舶に対しては、ポートステートコントロール(寄港国による監督)を適切に実施し、構造・設備及び乗組員の配乗等が条約で定められた安全及び海洋環境保護等の基準を満たしていない、いわゆるサブスタンダード船の排除に努めるとともに、海難船舶による油濁損害や放置座礁船などの万一の発生に備え、船主責任保険未加入の外国船舶が我が国に入港しないよう事前通報の審査を厳密に行い、加入している船主責任保険の有効性確認のための立入検査を実施します。

これらに加え、船員災害防止の観点から、船員災害防止協会が実施する各種講習会の機会を捉え、船員労働災害に対する船員の安全意識向上を図ります。

併せて、船員の健康確保の観点から、産業医制度導入やメンタルヘルス維持等、また、船員の労務管理の適正化に向けた取組を推進します。

海上安全環境部においては、海上保安部や警察署などの関係機関との連携・協力体制を一層強化しつつ、管内の支局・事務所と一体となって、これらの施策を着実に推進してまいります。

最後になりますが、本年が事故や災害のない明るい年になることを祈念
しまして新年の挨拶とさせていただきます。